

# もし今、首都直下地震が発生したら、 あなたのお住まいは大丈夫？

平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災(M9.0)は、未曾有の大災害となりました。被害の大きかった津波のほか、建物の倒壊・液状化現象・地盤沈下など地震による直接的な被害が広範囲に及びました。

区内でも震度5弱を記録し、建物の外壁や内壁のひび割れ、屋根瓦の損壊やブロック塀の倒壊などに被害が出ています。

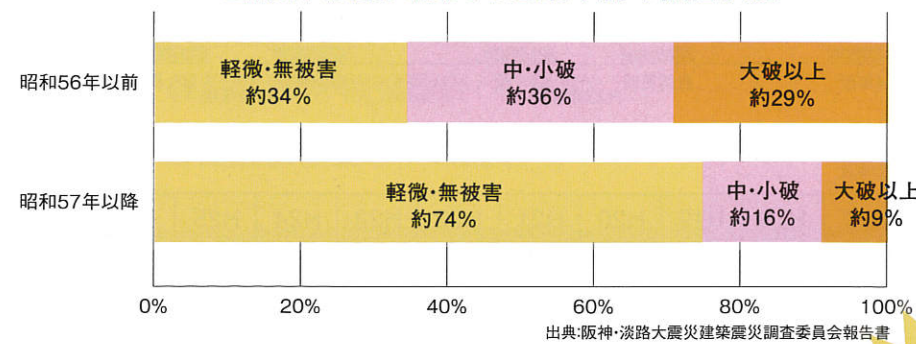
新宿区では、地震による被害を最小限にするため、昭和56年5月以前に建てられた建築物を対象に様々な支援を行っています。

## あなたのお住まいは、いつ建てられましたか？

昭和56年(1981年)5月以前に建てられた建物は、  
耐震診断を受けることをお勧めします。

昭和56年(1981年)6月に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されました。阪神・淡路大震災では法改正以降に建てられた建物の被害が少なかったと報告されています。

■ 阪神・淡路大震災の建築年別の被害状況

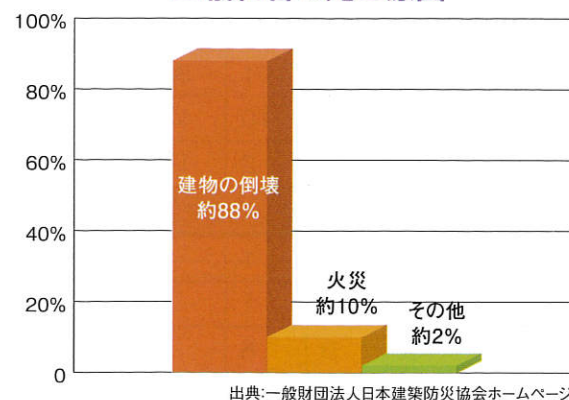


写真提供: 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

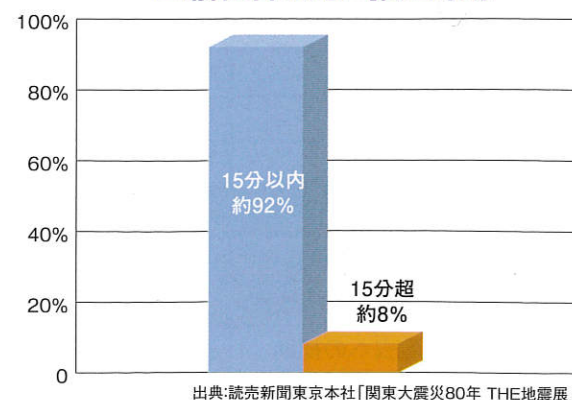
## 阪神・淡路大震災(M7.3)では、犠牲者のほとんどの方が、 建物の倒壊で亡くなっています。

平成7年(1995年)1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、約5,500の方が地震の直接的被害で亡くなっています。その中で、多くの方が建物の倒壊によって亡くなり、建物の下敷きになった方は火災から逃げ遅れて亡くなっています。

■ 犠牲者の死亡原因



■ 犠牲者の死亡推定時刻



# 首都直下地震が発生すると、 新宿区だけでも3,600棟以上が 建物倒壊(全壊)の可能性!!

東京都は、平成18年5月に公表した「首都直下地震による東京の被害想定」を見直し、平成24年4月に新たな被害想定を公表しました。下表は、東京に大きな被害を及ぼすおそれがある首都直下地震として選定された東京湾北部地震(M7.3)の被害想定の詳細です。

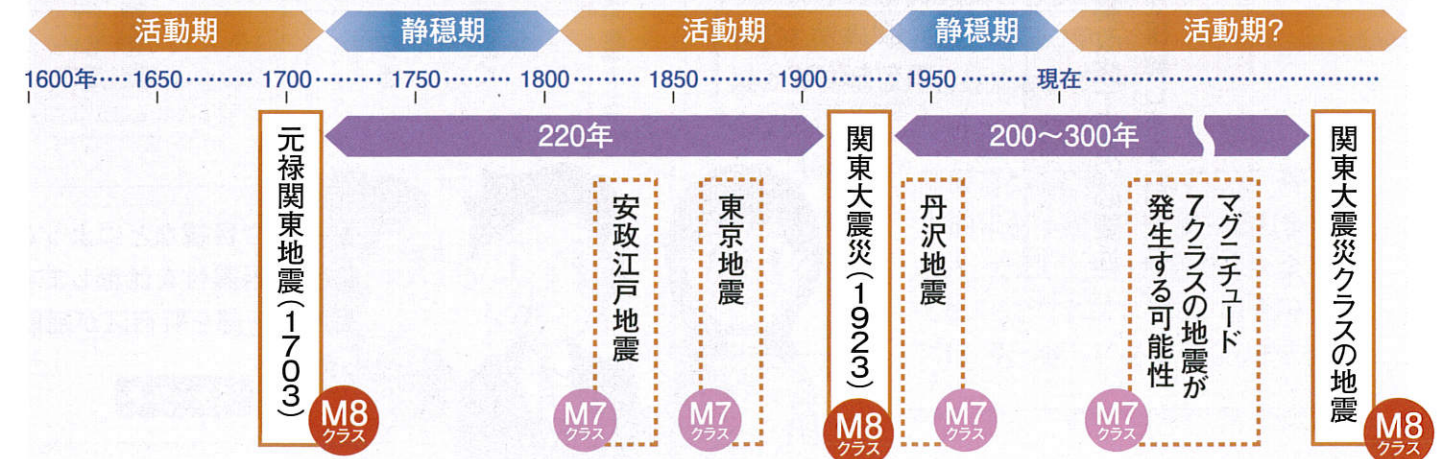
■ 東京湾北部地震(M7.3) ※冬の夕方18時・風速8m/秒を想定

		東京都の被害想定	新宿区の被害想定	
人的被害	原因別	死者	9,641人	293人
		揺れ・建物被害等	5,378人	220人
		火災	4,081人	64人
		その他	183人	8人
	原因別	負傷者(うち重傷者)	147,611人 (21,893人)	6,792人 (887人)
		揺れ・建物被害等	125,964人	6,479人
		火災	17,709人	258人
物的被害	原因別	建物被害(全壊)	304,300棟	5,743棟
		建物倒壊	116,224棟	<b>3,683棟</b>
		火災	188,076棟	2,060棟
	その他	3,938人	55人	



※小数点以下の四捨五入により、合計値が合わないことがあります。

■ 南関東で発生した地震 東京のある南関東では、約200~300年周期でM8クラスの大地震が発生しています。M8クラスの地震発生前後には、阪神・淡路大震災のようなM7クラスの地震が発生することが過去の地震からわかっています。



M=マグニチュード

参考: 首都直下地震対策専門調査会(第1回)資料